

## インタビュー調査へのご協力をお願い

私たちは、社団法人日本精神保健福祉士協会に付置されている研修センター主管の「精神保健福祉士養成カリキュラム改正に伴う実習指導者及び実習担当教員養成研修のプログラム開発事業検討委員」です。この度は、「認定実習指導者養成モデル研修」を受講いただき誠にありがとうございました。

精神保健福祉士の養成カリキュラムの見直しが図られる中、より実践力の高い精神保健福祉士を養成するため、実習教育のあり方はとりわけ重視されています。また、実習指導は、現場での経験を重ねる精神保健福祉士であれば後進育成のためには避けることのできない重要な使命とも言われています。今年度、本協会では、厚生労働省の補助金事業として精神保健福祉援助実習の指導者及び教員養成研修プログラム開発に関する事業を実施しており、本事業の一環として、この度の研修会を開催いたしました。

今回の研修について、その内容やプログラムの構成が妥当であったか、講師の選定や研修の趣旨が適切であったのかなど、研修を修了した皆様の意見を広く集約し、それを分析することで今後の研修プログラム再考の参考にしたいと考えております。

そこで、本研修を修了された数名の精神保健福祉士の方々からお話をうかがいたいと思います。ご協力をお願いする調査は、60分から90分程度のグループインタビューをさせていただくものです。精神保健福祉士の視点で、あなた様の率直なご意見をお聞かせ下さい。こちらからいくつかのご質問を用意いたしますが、それ以外にもご意見があればお話しいただければと思います。

質問項目は、主に次の5つとなります。①プログラムの内容、②プログラムの構成（順番や時間）、③講師の基準と適性、④配布資料の質と量、⑤研修の運営について、です。

お話しいただいた内容は、所定の手順に従って分類・分析し、その調査結果は厚生労働省へ報告するとともに、今後、本協会の機関誌等で公表する予定です。あなた様の個人情報や直接公開されるような事はありません。プライバシーの保護には十分配慮し、個人を特定できるようなことの無いようにいたします。正確な分析を行うために、できるだけ録音をとることをご了承ください。しかし、録音に抵抗がございましたら、その旨おっしゃっていただければ録音せずお話だけうかがわせていただくことも可能です。また、録音を開始してからでもご希望があれば中止いたします。

本調査によって、今後より多くの実習指導者を養成できるような研修を開催し、わが国の精神保健福祉の発展に寄与することができれば幸いに存じます。どうか、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

2010年2月21日

様

所属：社団法人日本精神保健福祉士協会  
研修センター長 田村 綾子

## 承 諾 書

調査者が実施するインタビュー調査にあたっては、研究倫理上の観点から、以下に記すことを遵守することを約束し、その証として調査者、調査協力者それぞれが本書を2通作成し、各1通を保有することとします。

- 1、調査への協力に関しては、以下のようにいたします。
  - 1) 調査協力者は本調査研究への協力を拒否できる権利を有しており、協力に同意されたとしても随時これを撤回できること。
  - 2) 調査協力に不同意であっても、調査者は調査協力者が不利益を受けないようにすること。
- 2、調査者は、調査結果を論文や報告書などに公表する場合は、以下のようにいたします。
  - 1) 調査協力者の身元や個人情報などが判明することがないようにします。(例、氏名・勤務先・地域・関係機関やそこに所属する人々・地域住民などの個人情報)
  - 2) インタビュー内容を論文や報告書などに引用する場合は、その前後の内容からその個人が特定できないようにします。
  - 3) 前記1) 2) 以外において、個人情報が判明・特定される危険性があると思われる時は、調査者は調査協力者に口頭及び文書で事前に説明し、承諾を得ることとします。
- 3、調査者は、本調査で得られた個人情報について、調査協力者の人権擁護およびプライバシーを保護する義務を有しており、研究資料などの管理責任および事故が生じた場合の責任を有しております。
- 4、調査者は、収集したデータ（録音データと逐語記録）の管理を厳重に行い、本事業関係者以外には一切公開しないこととします。
- 5、なお、本承諾書に記されていない事項で問題が生じた場合、調査者と調査協力者双方は誠実な対応を行なうこととします。

2010年2月21日

調査者 : 社団法人日本精神保健福祉士協会  
 実習指導養成研修プログラム開発事業企画検討委員会  
 代表者所属 : 社団法人日本精神保健福祉士協会 研修センター  
 代表者氏名 : 田村 綾子

以上の内容に承諾された方は次のところにご署名をお願いいたします。

平成 年 月 日  
 調査協力者 : (所属) \_\_\_\_\_  
 : (氏名) \_\_\_\_\_ 印

## 承 諾 書

調査者が実施するインタビュー調査にあたっては、研究倫理上の観点から、以下に記すことを遵守することを約束し、その証として調査者、調査協力者それぞれが本書を2通作成し、各1通を保有することとします。

- 1、調査への協力に関しては、以下のようにいたします。
  - 1) 調査協力者は本調査研究への協力を拒否できる権利を有しており、協力に同意されたとしても随時これを撤回できること。
  - 2) 調査協力に不同意であっても、調査者は調査協力者が不利益を受けないようにすること。
- 2、調査者は、調査結果を論文や報告書などに公表する場合は、以下のようにいたします。
  - 1) 調査協力者の身元や個人情報などが判明することがないようにします。(例、氏名・勤務先・地域・関係機関やそこに所属する人々・地域住民などの個人情報)
  - 2) インタビュー内容を論文や報告書などに引用する場合は、その前後の内容からその個人が特定できないようにします。
  - 3) 前記1) 2) 以外において、個人情報が判明・特定される危険性があると思われる時は、調査者は調査協力者に口頭及び文書で事前に説明し、承諾を得ることとします。
- 3、調査者は、本調査で得られた個人情報について、調査協力者の人権擁護およびプライバシーを保護する義務を有しており、研究資料などの管理責任および事故が生じた場合の責任を有しております。
- 4、調査者は、収集したデータ（録音データと逐語記録）の管理を厳重に行い、本事業関係者以外には一切公開しないこととします。
- 5、なお、本承諾書に記されていない事項で問題が生じた場合、調査者と調査協力者双方は誠実な対応を行なうこととします。

2010年2月21日

調査者 : 社団法人日本精神保健福祉士協会  
 実習指導養成研修プログラム開発事業企画検討委員会  
 代表者所属 : 社団法人日本精神保健福祉士協会 研修センター  
 代表者氏名 : 田村 綾子

以上の内容に承諾された方は次のところにご署名をお願いいたします。

平成 年 月 日  
 調査協力者 : (所属) \_\_\_\_\_  
 : (氏名) \_\_\_\_\_ 印

## スタッフ用

## グループインタビューの質問項目案

## 【調査上の質問】

本調査を導く、具体的な調査上の問いかけは以下の5点である。即ち、調査協力者からのデータ収集にあたっては、以下の5点が明らかになるように行わなければならない。

- 1) プログラムの内容について → 実習指導者を養成するために十分な内容であったか、科目間の重複や講義内容の不足はあったか（東京会場においては、2日目を養成校との合同研修にしてみたの感想）など、本人の率直な主観を大切にしてもらうよう配慮しながら詳細に聞き出す。
- 2) プログラムの構成について → プログラムの順番や個々の講義・演習の時間配分、2日間という日数設定など、研修全体の構成が妥当であったかをグループの力動に注意しながら聞き出していく。
- 3) 講師の基準と適性について → 今回はプロジェクトチームのメンバーを中心に講師陣を選定したが、その是非や講師の所属や背景に偏りがなかったかなど、各自の印象を語ってもらう。この質問については、グループに実際の講師が入っていると調査対象者は本音を言えない恐れがあるため、その辺りには十分な注意を要する。グループリーダーにおいても然りである。
- 4) 配布資料の質や量について → 受講者に配布した膨大な資料の読み易さ、今後の資料活用の可能性について、また研修参加の満足度との関連など、今後の配布資料作成の参考となるような感想を聞き出す。
- 5) 研修の運営について → 実施時期と場所、開始・終了等の時間設定に関する意見、演習の人数や研修に関する事務手続きなども含めた当日運営上の課題などを各自に列挙していただき、今後のより良い研修運営のあり方の参考材料とする。  
アンケート調査に関してどう思うか。  
自由参加で設定した懇親会に関する要否と、参加者の感想を時間があれば尋ねる。

※ 以上の点を念頭に置きながら、東日本・西日本でなるべく同一の調査方法を実施したい。これ以外に自由に語られる言葉は大切にしつつも、調査内容が趣旨と外れないよう適宜軌道修正を試みながら、忌憚のない意見を集めていく。

精神保健福祉援助実習における「認定実習指導者養成」モデル研修・受講者 **事前アンケート** No.1

本研修を受講いただきましてありがとうございます。  
 社団法人日本精神保健福祉士協会では、厚生労働省障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）として本研修を企画実施しております。研修効果を測定する目的で、受講者の皆様には研修前後にアンケート調査へのご回答をお願い致します。結果は統計的に処理し、「事業実施報告書への掲載」と「次年度以降の研修企画見直し」に活用させていただきます。  
 アンケート用紙には、事前と事後での変化を個別に把握する目的で通し番号をつけてありますが、個人を特定するものではありません。以上をご理解のうえ、ご協力をよろしくお願い致します。

◇実習指導者の認識（実習における重要度）

- 【4. 非常に重要      3. まあ重要      2. あまり重要ではない      1. まったく重要ではない】

◇取り組んでいるか否か

- 【4. 熱心に取り組んでいる      3. まあ取り組んでいる      2. あまり取り組んでない      1. まったく取り組んでない】

I 精神保健福祉援助実習指導概論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 精神保健福祉援助実習の課題について	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. 後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

II 現場実習スーパービジョン論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 実習において現場指導者の行うSVについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 実習SVの特性を理解することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 実習記録を通じた実習指導について	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. 指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

Ⅲ 現場実習指導方法論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 機関の特性を整理することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 実習プログラムを持つことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
5. 実習のアセスメントを行うことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

Ⅳ 現場実習マネジメント論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 実習生を受け入れるための環境整備をおこなうことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 教育機関が行っている養成課程について理解を深めることについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. 実習事前会議に参加することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
5. 実習報告会に参加することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

ご協力ありがとうございました。

精神保健福祉援助実習における「認定実習指導者養成」モデル研修・受講者 **事後アンケート** No.1

本研修を受講いただきましてありがとうございます。

社団法人日本精神保健福祉士協会では、厚生労働省障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト）として本研修を企画実施しております。研修効果を測定する目的で、受講者の皆様には研修前後にアンケート調査へのご回答をお願い致します。結果は統計的に処理し、「事業実施報告書への掲載」と「次年度以降の研修企画見直し」のために活用させていただきます。

アンケート用紙には、事前と事後での変化を個別に把握する目的で通し番号をつけてありますが、個人を特定するものではありません。以上をご理解のうえ、ご協力をよろしくお願い致します。

◇実習指導者の認識（実習における重要度）

【4. 非常に重要 3. まあ重要 2. あまり重要ではない 1. まったく重要ではない】

◇今後の取り組みについて

【4. 熱心に取り組む 3. まあ取り組む 2. あまり取り組まない 1. まったく取り組まない】

I 精神保健福祉援助実習指導概論	認識(重要度)	今後の取り組み
1. 精神保健福祉援助実習の課題について	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 実習指導者自身の自己点検と実習指導の関係を意識することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 自らの実践と精神保健福祉士としての価値の関連を整理することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. 後進の育成が利用者の利益に繋がることについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

II 現場実習スーパービジョン論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 実習において現場指導者の行うSVについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 実習SVの特性を理解することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 実習記録を通じた実習指導について	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. 指導者の姿勢や仕事ぶりから学んでもらうことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

Ⅲ 現場実習指導方法論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 所属機関での精神保健福祉士の役割を明確化することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 機関の特性を整理することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 実習プログラムを持つことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. プログラム作成にソーシャルワーク実習の視点を持つことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
5. 実習のアセスメントを行うことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

Ⅳ 現場実習マネジメント論	認識(重要度)	取り組んでいるか否か
1. 所属機関での精神保健福祉士の位置づけを把握することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
2. 実習生を受け入れるための環境整備をおこなうことについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
3. 教育機関が行っている養成課程について理解を深めることについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
4. 実習事前会議に参加することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1
5. 実習報告会に参加することについて	4 - 3 - 2 - 1	4 - 3 - 2 - 1

Ⅴ本研修を受講されて、実習指導に対する意識変化はありましたか。5つの中から1つ選択してください。また、あるとしたら、もっとも変化したのは、どのような面でしょうか。

1. 大いに变化した    2. まあまあ变化した    3. どちらともいえない    4. あまり变化しない    5. 変化しない

ご協力ありがとうございました。